

事業所内における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和6年3月22日

事業所名 一宮市立いずみ学園

チェック項目		はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室棟スペースとの関係で適切である	16	5	6	<ul style="list-style-type: none"> ・言語療法を実施する上でのスペースは確保されているが、母子分離の実施・玩具収納スペースの確保は困難。（発達年齢興味の対象物、身体機能の個人差の幅が大きいため様々な玩具を要す。） ・部屋がもう少し広いと良いと感じる時もあるが活動場所を分けるなどして工夫できている。 ・療育室が定員に対して狭く、子ども達のパーソナルスペースを確保できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導訓練室一児1人当の床面積2.47㎡以上、概ね10人 ・遊戯室一児1人当の床面積1.65㎡以上（ハンドブック指定基準編P 479～480） ・廊下、渡り、玄関などカームダウンエリアとして活用。 ・活動によってクラスの人数、参加の方法の工夫をしている。
	② 職員の配置数は適切である	7	14	6	<ul style="list-style-type: none"> ・病気療養中や産休育休中の職員を含めて適切と判断するのであれば職員数（現場）は厳しい状況にあると考える。 ・保育士の数がしっかり確保できるとより安全に丁寧な支援につながるのではないかと感じる。 ・療育補助の配置。 ・職員の配置数が少ない。 ・設置基準以上の人員を配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児発センターは、総数が概ね障害児の数を4で除して得た数以上である。 いずみ学園で言うなら9人以上 児童指導員－1人以上 保育士－1人以上 児発管－1人以上上記の通り、基準以上の配置をしている。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	11	8	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスと療育室との段差、療育室から集会室への移動時の段差等様々な段差がある。 ・多少の段差は子が空間認知を行ったりボディイメージを育んだり動きの言葉の理解を拡大したり等で有効。 ・人手不足を感じた時もある。 ・身体、聴覚、視覚障害など様々な障害に対して必要な設備、支援の方法を考えていく必要がある。 ・テラス側段差が多い。 ・床にジョイントマットを敷いている。 ・段差多くある。 ・子どもの発達に合わせて作業療法士が椅子にクッションを作る等の工夫はなされている。 ・今の時代に合っていない建て方だが安全には十分配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段差等、常に危険予測を行いつつ安全確保に努めるとともに、必要に応じ、改修や修繕を行っていく。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
業務改善	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	17	4	6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが快適に過ごせるように職員間で話し合いながら環境を整えているが、施設の老朽化等により人的努力のみでは難しい現状である。 ・修繕を重ねているが、設備が古く壊れやすい箇所が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設修繕等の必要性については、適宜対応している。 ・今後も引き続き、子どもたちの姿に合わせ、安心・安全に過ごせる環境を整備していくよう努める。
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	20	1	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会を実施する中で職員が参画しているが、ケース検討会に出席することが難しい勤務時間の職員とでは温度差があるように感じることもある。 ・すぐに注意すべき点が職員間で共有される環境にあると思う。 ・職員同士がお互いにこまめに声を掛け合って情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間に差がある職員に対しては可能な範囲内で、クラス会などの会議（時間を変動して）に参加してもらう。 ・引き続き、普段からクラス間や職員間での話し合いを密にし、意思疎通や情報共有をする。 ・園内研修等を通じ、職員の意思疎通及び意識の向上を図る。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	23	0	4		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け評価表はもとより、普段から保護者の意向は丁寧に聞き取るようにしている。その中で、業務改善すべきところについては対応していく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	17	2	8		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も幅広く意見の集約に努める。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	7	10	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価は行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価は行っていない。
	⑨ 職員の資質向上のために、研修の機会を確保している	23	0	4		<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実を図るとともに外部研修についても積極的に参加していく。 ・今年度は主査会主催の研修を増やし、全職員が参加できるようにした。研修を通して、職員間の交流をし、資質向上を図る。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	23	0	4		<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会等の機会を通じて、引き続きアセスメントを丁寧に言い、支援計画に反映させていく。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	20	1	6		<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査（新版K式、遠城寺式、KIDS）において、現発達段階について把握している。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	22	0	5	・年度の初めに全体でガイドラインの内容を共有する場が設けられている。	・今後もより個別化した支援内容を設定していく。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	23	0	4		・質の高い丁寧な支援ができるよう、引き続き一人一人が努力する。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	20	1	6	・日々クラス内で声を掛け合っている。	・職員一人一人の意識、職員間の連携を高め、活動プログラムの充実を図る。 ・いずみ学園が一つのチームとして、皆で子ども全員の支援をしていくという意識を持てるよう、職員指導をしていく。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	20	0	7	・変化の受け入れが難しい児、何回も繰り返すことで理解できて関心が持てるようになる児もいるので、同じプログラムを行うことも意味はある。	・学園生活の中でお子さん一人一人が様々な経験が出来るよう、発達や特性に応じた内容を工夫していく。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	22	0	5		・お子さんの姿に応じた自立活動等の個別支援、また集団活動の中でも個別のねらいに基づいた参加方法を検討し、実施している。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	22	0	5		・今後も継続する。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	23	0	4	・子どもに関して思ったことや気付いたことはその日のうちにクラス内の職員と共有するように心掛けている。	・振り返りができるように意識して話し合いの場を設けていく。 ・振り返るポイントを各々が明確にしていくことも必要。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	22	0	5		・今後も継続する。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	22	0	5		・今後も継続する。
㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	19	1	7		・会議の内容を園全体で共通理解し、子どもや家庭への更なる支援につなげていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑳ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	19	2	6		・今後も継続する。
	㉑ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	0	16		・該当なし。
	㉒ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 子どもの主治医や医療機関と連絡体制を整えている	10	1	16		・該当なし。
	㉓ 保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	19	1	7	・情報共有、相互理解を図っているが、転園先によっては情報共有等が難しい場合がある。	・学園の方から積極的に発信し、更なる情報共有や連携につなげる。 ・学園と関係機関(保育園・幼稚園・支援学校等)が継続的に情報共有できるよう、引き続き務めていく。
	㉔ 小学校や特別支援学校(小学部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	18	3	6		・学園の方から積極的に発信し、更なる情報共有や連携につなげる。 ・学園と関係機関(保育園・幼稚園・支援学校等)が継続的に情報共有できるよう、引き続き務めていく。
	㉕ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	20	0	7		・今後も継続する。
	㉖ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	22	0	5	・保育園とのクラス交流や親子交流の場が定期的に設けられている。	・今後も全ての児童が共に成長出来るよう地域社会への参加やインクルージョンの推進に努めていく。
	㉗ 自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て支援会議等へ積極的に参加している	17	1	9	・センター長が参画している。	・今後も継続する。
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	23	0	4		・今後も継続する。
	㉙ 保護者の対応力向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	21	0	6		・今後も継続する。
	㉚ 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	19	0	8		・今後も継続する。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③③ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	23	0	4		・今後も継続する。
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	23	0	4	・懇談やお迎えの時などに声をかけ、悩みを聞いたり助言をしたりしている。	・今後も継続する。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	23	0	4		・今後も継続する。
	③⑥ 保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	23	0	4		・今後も継続する。
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を保護者に対して発信している	21	0	6		・今後も継続する。
	③⑧ 個人情報の取り扱いに十分注意している	25	0	2		・今後も継続する。
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	23	0	4		・今後も引き続き、子ども、保護者それぞれ個々に合わせた関わりに努める。 ・職員一人一人の資質・能力に合わせ指導をしていく。
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	6	10		・子どもの安全や特性を鑑みて、実施は困難と考える。
④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	25	0	2		・訓練は今後も継続する。 ・マニュアル類は、見直しや検討を行った後、保護者にも閲覧してもらえるように整備する。 ・防犯対策として、玄関や非常出入口等のWロック、催涙スプレーや刺叉の設置をしているが、それらを使った訓練も実施していく。	

チェック項目		はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	25	0	2	・月1回、バスでの避難訓練と施設内外での避難訓練を実施している。	・今後も継続する。
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	23	0	4		・今後も継続する。
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	20	0	7	・今年度は該当なし。	・該当なし。
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	22	0	5		・引き続き、職員の「ヒヤリハットを軽視しない」という意識づけを行っていく。 ・小さなことでも発信し、普段から話し合いや情報共有できる環境を整えていく。
	④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	23	0	4	・虐待防止のための研修会が複数回実施され、職員間で共有されている。	・今後も定期的・継続的に園内研修等を行い、職員の意識向上に努める。
④⑦ どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	21	0	6	・同意書に記載。		
合計	929	61	279			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。